

■第3回陸奥の国のまちづくりワークショップ 意見のまとめ 黄グループ

	現況の問題点	将来のイメージ	整備・保全・改善の考え方
商業	<ul style="list-style-type: none"> ・むつ地区のスーパーは明らかに過剰であり、体力勝負では地元企業が不利である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一定の制限を設けた商業地。 ・住民のニーズに応えた商業地を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・商業地域にある程度の規制をすることが必要。
観光	<ul style="list-style-type: none"> ・新幹線の八戸-新青森間の開通が目前となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新幹線の開通に伴い、七戸十和田駅からの下北地方への観光客の滞在時間が長くなるようにする。 ・恐山、薬研温泉など個別の観光施設だけでなく、下北地域全域や青函を睨んだ広域的な視野にたった観光を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・JRの乗り継ぎや下北半島縦貫道路の早期整備により、交通の利便性を高めていく。 ・むつ市の特性を生かして田舎らしい田舎、自然を自然らしく整えていく。
産業振興のための交通	<ul style="list-style-type: none"> ・むつ市の特産品があまり知られていない。 ・流通経路が限られているため、競争力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・むつ市を含めた下北地域の特産品（高原野菜、大間マグロ、イカなど）を中央市場に新鮮なまま運び、高付加価値製品として売り込む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・下北半島縦貫道路の早期完成。
工業		<ul style="list-style-type: none"> ・むつ市は原子力産業を核として、産業立地を図る。 ・中小企業が個別に努力することにも限界があるので、同業者での協力体制を整えて、力を発揮できるようにする。 	
農業	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少、核家族化、少子高齢化などから世帯あたりの労働力が激減している。 ・後継者問題など農業を続けられないため、耕作放棄地が増えている。 ・大規模農業で機械を購入した農家は借金返済のために農業を辞めるにやめられない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・従来から行ってきた農業を継続することができないため、少ない労働力に見合った農業を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Iターン者など営農希望者が田畑を使えるような方策が必要。 ・雇用が少ない下北地域で働く場として、農業を活用できないか。
漁業	<ul style="list-style-type: none"> ・観光・レクリエーション面での漁業とのふれあいがあまりない。 ・漁業の後継者が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業権の問題はあるが、漁協と協力して、旅行者や観光において豊かな海、海産物を楽しめるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業体験や、海、川などを一般開放して、漁業とふれあうことができないか。